



犬山こころの歌

現代社会の中での学校教育の場では、今まで以上に子どもたちの心の成長を見つめていくことが大切である。子どもの心の成長を育む取り組みとして、それに関わる心の詩を児童が中心となって制作し、曲を付けて歌うことにより、子どもの心を育てる一助とする。また、犬山市制60周年という節目を大切なものとして、子どもたちにも感じ取ってほしい。

そこで、市内全小学校の児童の手による、「犬山こころの歌」を制作し、全小学校の子どもたちが歌うという取り組みを考える。

さらに、毎年12月に行われる犬山市小学校音楽会で、全体合唱の曲として、子どもたちが歌うことも視野に入れた取り組みを考える。

- 市内全小学校の子どもたちが、夢や希望をテーマとして、歌詞に使う言葉やフレーズを考える。
- 集められたフレーズを元にして、歌詞制作委員会で、歌詞を作成する。
- 楽曲作成委員会にて、作成された歌詞に曲をつける。
- 範唱用CDを作成し、各教室にて、歌の練習をする。
- 長く歌い続けていくことを期待し、犬山市音楽会にて全員合唱をする。

犬山こども人権宣言



子どもの心の成長を願い、犬山市内の中学校の生徒が、心をより豊かにする取り組みとして、人権宣言ということばを創り出す。

市内の中学生が、それぞれの想いを話し合い、宣言文としてまとめていくことによって、自分自身や他人を大切にしようとする足がかりとなるようにする。

- 市内4中学校の生徒代表（各2名程度）が一堂に会し（1回）人権に関連した内容の取り組みを各校がそれぞれ一例ずつ報告する。
（平成26年度に限らず、ここ2、3年の間の取り組みから）
- それをもとに、参加している代表生徒により「犬山子ども人権宣言」として一つのメッセージ、あるいはスローガンをその場で決める。
- その後、市内4中学生へ発信をする。

